



牧之原市教育会 第2回教頭研修会 12月1日（火）午後2時～ 相良史料館にて

◎教育長あいさつ

◎神田橋芳幸 氏（文部科学省 総合教育政策局 地域学校協働活動推進室 地域学校協働推進係 係長）

① 講話 「地域に信頼される学校づくり」

（兵庫教育大学教職大学院教授 小西哲也 氏）

②グループワーク

◎お礼の言葉（中村康幸校長）

＜今回の教頭研修会の目的と本研修会への思い＞ 昨年度、第1回研修会で、コミュニティ・スクールの基礎的な内容に関して熱い思い、熱意をもった生重幸恵 CS マイスターより学び立ち上げに向けての意欲化を図った。第2回研修会では、学校運営協議会と地域学校協働推進本部を一体的に立ち上げるにあたって、必要なことは何か、どのような手順で行えばよいかを井上尚子 CS マイスターから学び、第3回研修会では、東山田中学校コミュニティハウスを視察し、立ち上げ、運営に携わった竹原和泉 CS マイスターより、コミュニティ・スクールの具体を学んだ。本年度は、コミュニティ・スクールが立ち上がっている学校、立ち上げの準備が進んでいる学校、準備に苦慮している学校が混在している。このような状況を踏まえ、山口県の全小中学校へコミュニティ・スクール立ち上げの中心となって尽力した小西哲也 CS マイスターから、子どもたちの在りたい姿や学校の未来を地域の方々と描く**コミュニティ・スクールの可能性**をお話いただき、コミュニティ・スクール実施校には、今後の運営の方向性を、今後立ち上げる学校には、更なる意欲化を図ることを目的に研修会を開催しました。

コミュニティ・スクールの持つ可能性、そうです、可能性＝こんなことができそうだという思いを先生の著書「奇跡の学校」から私は感じ取り、身体が熱くなりました。この熱を先生方に感じ取ってほしい。そういうコミュニティ・スクールを牧之原市の各学校で立ち上げてもらいたい、目指したいと思いました。私から教頭先生方に「奇跡の学校」をバイブルにして話をして、この熱が伝えられないだろう。だったら、何としても著者である小西先生本人から教頭先生方に話してもらいたいと思いました。そこで、遠慮もなく、文部科学省の神田橋さん（今回、小西先生の話を知りたいという思いと、立ち上げようとしている現場の様子を知りたいという思いから、スケジュールを調整して本研修会に来てくれました。）の所に、たいした知り合いでもないのに、「小西先生に繋がらないか」と直接連絡を取りました。運よく小西先生自身も文科省の CS マイスターであったため、小西先生の連絡先を教えてください、ことができ、小西先生に直接お電話し、今回の研修会が実現できました。

＜講話について＞



◎ 科学技術の進歩がすさまじく、未来映画や漫画の世界が（society5.0→講演の中でも、動画で紹介されました）本当に可能になるらしいけれど、問題は人が地域に根ざすことができるかです。日本中の各地方が抱える課題の一つです。この課題解決の柱は、今の子どもたちが、地域で生活する18歳までに「確かな地域愛」をいかに育むかということです。それができなければ、地方の町は消滅するかもしれません。「子どもたちと地域をどうつなげていくのか」を地域と学校が一緒になって真剣に考える場が必要です。その場が学校であり、コミュニティ・スクールです。

地域の方々が、「おらが学校」を自慢し、学校を拠点に大人の学びに打ち込み、子供たちへの支援を通して協働する。楽しみながら元気に充実した日々を送る姿に触れる子どもたちが計り知れない地域愛を自ら育むことができるはずで。

これが、小西先生からのメッセージ「コミュニティ・スクールの可能性」です。このことを、お話の中では、荒れた中学校に、花を生ける活動から広がったおばあちゃんグループの生け花教室の事例（子どもたちの心に育まれた地域の方々への感謝の心とおばあちゃんたちの生きがい）。英語の教科書を地域の方も購入して、一緒に英語の授業をおこなっている学校の事例（学ぶ地域の方々を見て子ども自身で気づいた「学ぶ意義」）など多くの事例を入れながら話してくれました。

今回は、教頭先生方だけでなく、CS ディレクターさん、学校運営協議会の方々、（裏面に続く）

さらには、議員の皆さんや教育委員の皆さん等が聞いてくれました。立ち上げる意義を多くの方が共有してくれたのではないのでしょうか。ただ、立ち上げれば、地域愛は育まれるというものではないですよ。昨年訪問した東山田の竹原 CS マイスターも、『コミュニティ・スクールが立ち上がったって、要するに、運営協議会ができて、できただけであって学校は何も変わらない。コミュニティ・スクールのよさは、漢方薬のようにジワ、ジワ効いてくるもの』と教えていただきました。井上 CS マイスターからは、『立ち上がったら、あせらないで、学校運営協議会では、学校を知るところから始めればよい』とも教えていただきました。

まずは、運営協議会の方々に学校を知ってもらい、学校運営協議会の委員と一緒に、地域の方々に学校が見えるように、そして、学校（子どもたち）に関わる地域の方を今までより増やすというスタンスでよいのではないのでしょうか。学校運営協議会の委員に学校を知ってもらうことから発展し、学校の課題を学校運営協議会で熟議できるようになれば本格的なコミュニティ・スクールと言えるんじゃないかなあ。



12/2 小西先生と「勝間田小CS」「萩間小CS」を訪問しました！



訪問するたびに勝間田小コミュニティルームが色々なアイデア作品や展示物、掲示物等が増えていきます。地域の方々がリラックスしてつどえる部屋になっていくのがよくわかります。小西先生は、思わずレコード盤が飾られているのに食いつき、そのレコードを古くなったろくろの機械で回しながら聴くというところに感心していました。ふるさと勝間田にむけ、校長の思いを汲み、鈴木 CS ディレクターが地域の方々と学校をつなぐことに尽力した今年の活動を小西先生と振り返りました。小西先生から、地域の方に支援してもらおうという関わりにとどまらず、地域の方が学校に来て楽しんで学ぶ場になれば…。例えば、子どもたちの体力テストを地域の方も参加できるようにするというアイデアもいただきました。

続いて、萩間小を訪問すると、坪池 CS ディレクター、校長だけでなくなんと運営協議会委員の皆さんもおり、びっくり！！（ありがとうございます。）ここでは、萩間小学校の体験活動に関して、みんなで振り返ると同時に、今後考えている活動に関してみんなで協議しました。先生からは、体験活動から体験教室にして、子どもたちだけでなく地域の方も参加できる活動に発展すると楽しいのでは…！とアドバイスをいただきました。そう言えば、小西先生は、昇降口を活用してのコミュニティルーム「ちょっくら」を興味深げに見ていました。



書籍紹介 奇跡の学校

小西哲也・中村正則編著

第1章にコミュニティ・スクールの必要性、役割等が書かれています。この第1章を読みわたしは体が熱くなりました。そして、コミュニティ・スクールを立ち上げたいと強く思いました。第3章には、多くの事例も記されており、コミュニティ・スクールのよさが具体を通して理解できました。

出版社は風間書房
定価 1,500 円＋税



コミュニティ・スクールを通してつながる

今回、東山田の竹原さんにつないでいただいた文科省の神田橋さんですが、「小西先生のお話を聞きたい、そして牧之原市の取組を感じ取りたい」と本研修会に業務(文科省の業務だから、尋常じゃない量)を調整して足を運んでくれました。ありがとうございました。

神田橋さんだけでなく、県教委の後藤さん、裾野市の指導主事の方々、吉田町教委の三輪さん、大石さん、榛原高校の下村先生とコミュニティ・スクールを立ち上げようと努力されている方々とつながりました。これを機会に、情報を共有し一緒にがんばりましょう

